

## 第7回建設産業戦略的広報推進協議会 議事概要

日時：平成27年3月19日（木）16：00～18：00

場所：（一財）建設業振興基金 3階会議室

### 高校等キャラバン（キャラバン活動の拡大）

○工業高校だけではなく、高校の普通科や農林・水産系の高校への拡大が必要。また小中学生の体験学習の受入れなど、国交省内のキッズコーナーと連携して広げるのもよい。

○本年度は、「工業高校キャラバン」として工業高校を対象として実施していたが、H27年度は「高校等キャラバン」として、小学校・中学校・高校の普通科へ開催対象を広げる予定。

○ゼネコンの労働組合（日建協）では、入職者確保の為、建築・土木系の就労者によるキャリアパスの説明などの出前講座を行っている（年4～5校）

○教職員とのパイプ作りが大切。学校の年度計画に盛り込んでもらう為には前年の夏休み位までに学校側と交渉する必要がある。

○小中学生は、学習要領で1週間～10日位の体験学習が必要となっているが、ほとんどが他の産業に取られてしまう。建設業は現場が危険という理由で断っているケースがある。

### 業界内広報

○イベント等の推進について、盲点となっている業界内部へのアピールも必要。業界内部を通して家族などに伝えていく必要がある。建設業従事者が魅力を感じて伝えてもらわないと人は集まらない。

○現在発行されている広報誌は従業員の家族を対象にしているものが少ない。

○以前から建設現場では、引渡し前に、現場を家族に見せるという活動はあったが、昨今は引渡しまでの期間短縮などにより困難なケースも増えている。

○子供を現場に入れる際の危険性はあるが、地元の小学校に社会科見学として、施工中の現場を見せているケースもある。建設業が良いというアピールだけではなく、建設物の良さをPRしてもよい。

○新しいネタを探すのも良いが、今あるコンテンツを使って、ちょっと見方を変えるだけで、だいぶ変わるものもある。

### 電子ライブラリーなどの活用

○パンフ・ポスターなどを作る時に写真の収集で困ることが多いので、活用できると思う。

○動画、DVDなどは、認知されるまで時間がかかるので、TEPIA（一般財団法人高度技術社会推進協会）などとコラボしてみてはどうか。

### 建設業の概要説明に使用する資料

○建設業の概要を説明するパワーポイントの資料があると良い。キャラバンの冒頭説明用として、15分、30分、1時間バージョン等があればよい。

○現場の就労者が家に持ち帰ってもらえるものにカスタマイズ（自分の現場の写真を追加できるなど）できると良い。

### 現場を見せる

○公共工事関係の見学会は地元住民への理解が主な目的となっているが、現場で働く方々の家族に見せるという視点も入れてはどうか。

○建設現場の囲いの壁面を活用。透明な囲い板部分から中が見えるものもある。現場で行われている工程のイラストや説明を載せてはどうか。通りかかった子供達に興味を持ってもらえる。

○CCI（Changing Construction Identity）東京では「建設ステーション」において小中学生も見学可能な現場の情報を提供している。

○現場見学会はそれぞれの企業ごとに開催しているのが一般的。建設業界として、発注者とゼネコンと我々が協力して全国展開出来ないか検討したい。実際に現場見学会を行っている企業の活動をベースに検討するのが良いのではないか。

### 小中学生向けのコンテンツ

○好評だった屋外ブースとして、土嚢づくりがあり、軍手をしてスコップを持つ経験がないので好評だった。コンクリートを人気キャラクターの型に入れて、どれ位で固まるのかの体験など。

○角材に数本の釘を何秒で打ち込めるかなどの釘打ちコンテスト。使った事のないのこぎりで木材を切るだけでも喜ばれる。

### 現場見学会等の窓口

○現場見学が可能な企業情報、取次ぎが可能な団体の情報をHP等で検索可能とし、学校からの見学要望に応えたい。ポータルサイトを活用したい。ただし、現場の進捗状況により受入れ困難なリスクなどの課題もある。

○日建連の取組みとして、修学旅行などとセットで現場見学を希望する学校のコーディネート。学校からの希望に添える現場があるのか企業に問い合わせをしている。

○現場見学終了後に見学者から感想文などをもらえると受入れ企業側のモチベーション向上につながる。

○作業中の現場の方が面白いが、点在している、期間限定、危険、個別性が強い、体験できる人が限られるなどの問題がある。